

受益者の皆様へ

安田投信投資顧問株式会社

8月20日の「グロース&インカム 2002-03」の基準価額下落について

8月17日の国内株式市場の大幅下落を受け、弊社下記ファンドの8月20日の基準価額が大きく変動いたしましたのでお知らせいたします。

1. 主要株価指数（8月17日現在）

株価指数	8/17終値	前日比	騰落率(%)
TOPIX(東証株価指数)	1480.39	-87.07	-5.55
日経平均株価	15,273.68	-874.81	-5.42
東証2部 株価指数	3616.58	-147.07	-3.91

2. ファンド名及び基準価額（8月20日現在）

（8月20日基準価額対前営業日比5%以上下落対象ファンド）

ファンド名	8月20日基準価額(円)	前日比(円)	騰落率(%)
グロース&インカム2002-03	9,885	-676	-6.40

3. 国内株式市場の動向

8月20日の当該ファンドの基準価額の算出基礎である17日の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が全面安となり3日続落、前日比87.07ポイント下落(5.55%)の1480.39ポイントと、昨年7月以来の1500ポイント割れとなりました。米国サブプライムローン問題を発端とした信用収縮による世界のリスク資産からの資金流出の連鎖は、各国株式市場のみならず為替相場や商品市況にも大きく広がりました。為替相場では大幅な円高が強まり、16日には116円台だった円ドル相場は17日には一時111円台に、対ユーロでも156円台から一時149円台にまで円高が進みました。円安メリットの剥落懸念に加え、海外景気の先行きに対する不透明感の台頭から自動車株やハイテク株など国内株式市場の主力となる輸出関連株が売り込まれました。また、原油や非鉄金属等、商品市況の下落から、これまで買い進まれてきた海運株や商社株、造船株にも売りが広がりました。需給面では、外国人投資家による換金売りに加え、信用取引の追加証拠金が必要となった個人投資家の売りが重なった一方で、お盆休み等の要因でこれに買い向かう投資家も限られたことから株価下落に拍車がかかったものと思われます。

*当資料に記載されている表、投資環境見通し等については、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。

*当資料は安田投信投資顧問株式会社が作成したものであり、証券取引法に基づく開示書類ではありません。

*当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは、完全性について明示、黙示に関わらずこれを表明あるいは保証するものではありません。

4. 今後の見通し

8月20日の国内株式市場は、前日比43.18ポイント上昇(+2.92%)の1523.57ポイントと、4日ぶりに大幅反発しました。17日に米FRBが公定歩合の引下げに踏み切ったことで世界的な信用収縮懸念が後退、欧米株が急反発したことや、20日の円ドル相場が114円台に戻すなど為替の円高基調が一服したこと、日銀による短期金融市場への資金供給等が好感されました。当面の株価については、足元の下落が急激かつ大幅なものであったことから、短期的には引き続き戻りを試す展開も想定されますが、サブプライムローン問題を端緒とする信用収縮懸念が完全に払拭されたわけではなく、先行きに対する市場の警戒感も根強いことから、海外株式市場や為替相場等の外部要因より、不安定な展開が続く可能性が高いものと思われます。但し、直近の株価下落により、TOPIXの今期予想ベースのPERは16倍台にまで低下、バリュエーション面には割安感が生じています。また、今後の為替相場や商品市況には懸念が残りますが、企業の期初の収益計画は保守的であり、現状の水準では上振れ余地こそ縮小したものの、計画を大きく下回る可能性は低いものと思われます。足元の市場の混乱が収束に向かうにつれ、ファンダメンタルズの堅調を背景に、株価は徐々に緩やかな上昇トレンドに回帰して行くものと見ています。

以 上

*当資料に記載されている表、投資環境見通し等については、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。

*当資料は安田投信投資顧問株式会社が作成したものであり、証券取引法に基づく開示書類ではありません。

*当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは、完全性について明示、黙示に関わらずこれを表明あるいは保証するものではありません。